

資福寺跡と周辺に残る文化遺産

資福寺は、弘安年間(1278～1287)長井時秀が鎌倉建長寺より紹規禅師を招き建立された。この時、紹規は師の大休禅師を開山としたという。

創建の年を特定することは資料に乏しく詳らかにすることはできないが、弘安7年(1284)執権北条時宗の卒去に際し、その死を悲しんだ時秀が落飾して西規と号して資福寺を建立したとも伝える。

資福寺は関東十刹の一つであり、数多くの名僧を輩出した。後に建長寺の法統を継ぐこととなる紹規をはじめ、五山文学の鉄庵和尚、鉄庵の弟子無涯和尚などである。

長井氏が伊達氏の侵攻により滅亡した後も、資福寺は伊達氏により手厚い保護を受けている。後に東昌寺、光明寺、満勝寺などとともに伊達五山の一つに数えられる。

戦国武将として著名な伊達政宗が幼少時に資福寺に学んだことはよく知られている。天正19年(1591)伊達氏の移封により、資福寺も岩出山へ移転。その後仙台へと移る。



現在の資福寺跡の近景



板碑群



本町最大最古の六面幢



資福寺跡に残る空堀



わずかに残る土塁状の施設

野手倉、夏刈に残る伊達家墓所



大字竹森野手倉地内に残る五輪塔二基。

明治21年、伊達家による伊達家先祖の墓所調査が行われた際に発見されたもので、伊達家により正式に伊達氏九代政宗の墓と認められたもの。明治37年には政宗没後500年祭が執り行われ、この時に、石塀や門柱、標柱などが整備されたという。

右が伊達政宗、左が政宗室紀氏の墓である。政宗の正室紀氏は、足利義満(三代将軍)の生母の妹にあたり、この後、将軍家とより密接につながりを持つようになる。

資福寺跡の一角に残る伊達家墓所

資福寺跡には伊達政宗(九代)とその室紀氏、伊達輝宗、輝宗の死に殉じた宿老遠藤山城守基信の墓が所在する。



中世の石造物



弘安6年(1283)大日板碑
 紀年銘のあるものでは本町最古の板碑
 「右志者悲母為三十五日忌也」



永仁7年(1299)磨崖碑



天文7年(1538)石鳥居



徳治元年(1306)阿弥陀三尊板碑
 本町では数少ない図像板碑
 糠野目夏刈地区に2基を数えるのみ

◆伊達氏天文の乱との関わりを思わせる町内に残る六面幢群

↓ 天文23年(1554)下和田六角六面幢



← 天文24年(1555)滝ノ下六面幢

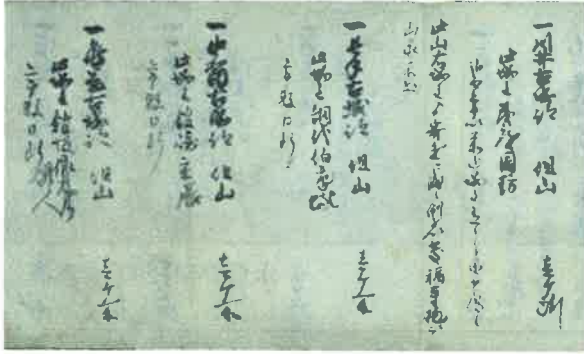
↓ 弘治2年(1556)文殊一ノ宮六面幢



高畑城について

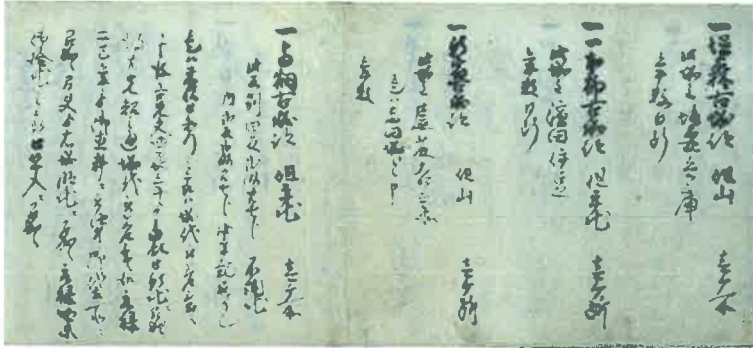
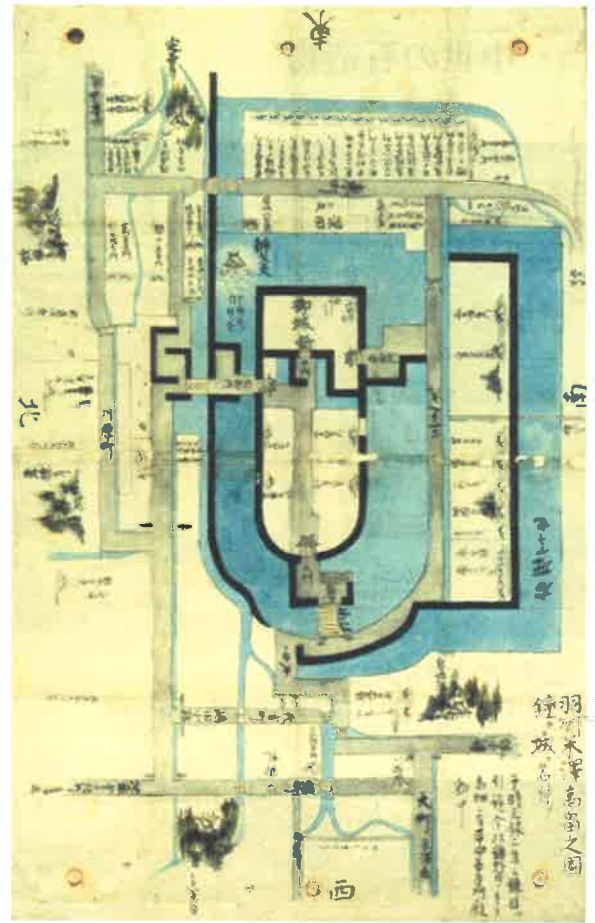
↓延享3年(1746) 屋代郷内の古城址に関する記載

本町内では、中和田・亀岡・塩森・一本柳・新宿・高畑の六ヶ所の記載がある。



元禄2年(1689)時の高畑城絵図→

江戸期のもではあるが、城の様子がよくわかる。

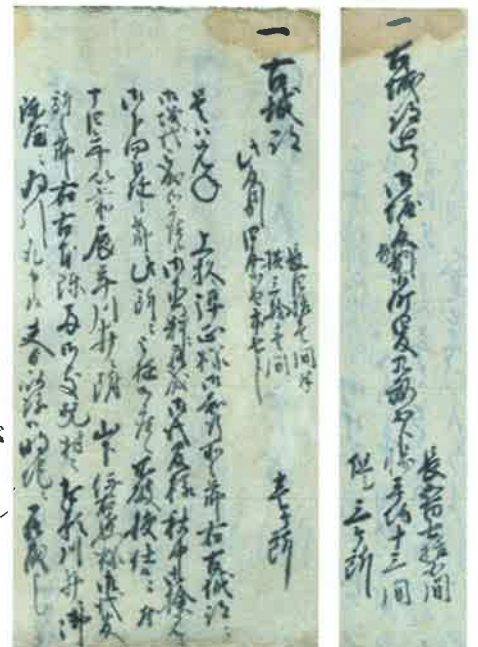


↓ 高畑城外堀(南東角部)確認状況

↓ 高畑城外堀調査状況



↑ 平成24年に実施された発掘調査により姿を現した高畑城外堀。『障子堀』という堀で、同様の形態は米沢城に見られる。20年ほど前までは、後北条氏の城郭にのみ見られる作り方と考えられていたが、多くの発掘調査成果により各地で発見例が増えている。時期的にも伊達氏の時代として間違いないと思われる。



→2枚 元文2年(1737)高畑村明細帳の中の古城跡(高畑城)に関する記載。これによれば、堀の幅が十三間(約24m)と記され、平成19年に実施した調査により検出された内堀跡・外堀跡とほぼ一致する。